

問題一

童話を使って、いかに主観を入れずに、文章を客観的に読み取ることができたかどうかを試している。その上で、日本語を正確に扱うことができる能力をチェックしていく。

第一問

■解答 (各4点)

問一 冬(寒い冬) 問二 ウ 問三 エ

■解説

一文を論理的に把握したかどうか。

問一 論理的言語力「主語と述語の関係」

「寒い冬がやって来ました」が、一文の要点

他は飾りに過ぎない。

問二 論理的言語力「助詞」

「も」という助詞の使い方。冬が至る所にやって来たことに加えて、きつねの親子の住んでいる

森へもやって来たことを示している。

問三 論理的読解力A「文章の表現技法」

ア「読者に気をつかっている」が、×。

イ「北方から」は「やって来ました」を飾る言葉。

ウ「きつねの親子がすんでいる」と置き換え可能。

エ「寒い冬」という人でないものが、「やって来ました」のだから、擬人法。

第二問

■解答 (4点)

問 雪はまぶしいほど反射していた

■解説

問 論理的読解力A「理由の抜き出し」

本文中に書かれている理由を探す。「お母さん

ぎつねは洞穴の入口から外へ出て始めてわけがわ

かりました」とあるから、その後に理由が示されて

いるはずである。「あまり強い反射を受けたので」と

理由を表す「ので」があることに注意。これだけだ

と何が反射を受けたのか分からない。そこで、その

直前の「雪はまぶしいほど反射していた」が正解。

第三問

■解答 (4点)

問 ア

■解説

問 論理的読解力A「比喩」

比喩の問題。比喩とは、物事の状態や様子を他

の物事にたとえて表すことをいう。比喩も決して

感覚ではなく、論理で解決できる。

() は雪をたとえたものなので、雪に似たも

のが答え。エ「粉雪」は比喩でないから、×。

第四問

■解答 (各2点)

問 (1) が (2) から

測定する能力

論理的言語力	論理的読解力A	論理的読解力B	論理的思考力	論理的表現力
日本語を論理的に扱う能力。	文章を論理的に読む力。	文章構造を論理的に解説する力。文と文との論理的関係、段落と段落との論理的関係、文章全体の論理構造を把握する力。	文章の要点を論理的に整理し、まとめる力。論理的に話す力。論理的に思考し、説明する力。おもに記述力。自分の考えを論理的に書く力。	他者に向かって、論理的に話す力。論理的に思考し、説明する力。おもに記述力。自分の考えを論理的に書く力。

■解説

問 論理的言語力「助詞」

語句と語句との関係を論理的に把握する問題。

(1) 直前の「すぐ暖かくなる」と、直後の「霜焼け

けができたらかわいそう」は、逆接。逆接

とは、前の事柄から予想される以外の結果が

示される関係をあえて結びつけていること。

(2) 直後の「手袋を買ってやる」の理由が、直前

の「霜焼けができたらかわいそうだ」

第五問

■解答 (4点)

問 ア

■解説

問 論理的読解力A「比喩」

比喩の問題。一文の要点を把握する。「真っ暗な

夜がやって来たが、雪は白く浮び上がった」が、要点。

イ 夜が野原や森を包んだのであって、雪の中に

野原や森が包まれとは書かれていない。

ウ 「雪が見えなくなっている」が、×。

エ 包み込んだのは雪ではなく、夜である。

第六問

■解答 (各4点)

問一 お母さんのお腹の下 問二 町の灯

問三 町へ出かけて行ってとんだ目にあったことを

思い出したから。

■解説

問一 論理的読解力A「指示語」

指示語の問題。指示語は直前から順次検討する。

子ぎつねがどこから目をばちばちさせたのかを直

前から探すと、「お母さんのお腹の下」とある。

問二 論理的読解力A「イコールの関係」

直後に「あれはお星さまじゃないのよ」とある

ので、それでは何なのかと文章を読んでいくと、

その後に「あれは町の灯なんだよ」とある。

問三 論理的思考力「理由説明」

理由を文中から探し求める問題。ここでも主観

的な判断をせずに、文章の論理をあるがまま追え

たかどうか。

直後に「母さんぎつねは、あるとき町へお友達

と出かけて行って、とんだめにあったことを思出

しました」とある。

第七問

■解答 (各4点)

問一 エ 問二 ウ→ア→エイ

測定する能力

論理的言語力	論理的読解力A	論理的読解力B	論理的思考力	論理的表現力
日本語を論理的に扱う能力。	文章を論理的に読む力。	文章構造を論理的に解説する力。文と文との論理的関係、段落と段落との論理的関係、文章全体の論理構造を把握する力。	文章の要点を論理的に整理し、まとめる力。論理的に話す力。論理的に思考し、説明する力。おもに記述力。自分の考えを論理的に書く力。	他者に向かって、論理的に話す力。論理的に思考し、説明する力。おもに記述力。自分の考えを論理的に書く力。

■解説

問一 論理的言語力「接続語」

接続語は文と文との論理的関係を示す記号であ

る。直後の「坊やだけを一人で町まで行かせる」

理由が、直前の「母さんぎつねはどうしても足が

すすまない」なので、因果関係。因果関係とは原因

と結果とのつながりのことである。

ア 逆接 イ 言いかえ・まとめ

ウ 理由 エ 因果関係

問二 論理的読解力B「整序問題」

お母さんぎつねの話論理的に並べ替える問題。

文中の「まず」「それがみつかったら」「そ

うするとね」といった論理語を手がかりにする。

第八問

■解答 (各4点)

問一 ウ→ア→イ 問二 エ

■解説

問一 論理的読解力B「整序問題」

これも、お母さんぎつねの話論理的に順番に並

べ替える問題。直前の「どうして？」は、なぜき

つねの手の方を出してはいけないのか。それに対

して、お母さんぎつねの話完成させる。

ア「それどころか」に着目。その指示内容が、

ウ「手袋を売ってくれない」。ウ「手袋を売って

くれない」→ア「それどころかつかまえて檻にい

れちやう」と話がつながる。ここまでは手を出し

てはいけない理由で、最後にそのまとめである、

イ「人間って本当に怖いものなんだよ」がくる。

問二 論理的言語力「副詞」

「決して」は副詞であり、副詞は動詞や形容詞

などを修飾する。ここでは、「決して」いけな

いよ」と述語につながる。

第九問

■解答 (4点)

問 星

■解説

問 論理的読解力A「比喩」

比喩の問題。直前の「二つきりだった灯りが二つ

になり三つになり、はては十にもふえました」から

「灯り」に似て、夜空で「二つ増えるものは何か。

第十問

■解答 (各4点)

問一 ア

問二 子ぎつねはすきまからまちがった手をさしだした。

問三 木の葉

■解説

問一 論理的読解力A「比喩」

比喩の問題。まず傍線部を考えること。前半の要点は、「戸があいて」なので、その記述がないイを消す。後半の要点は「光が雪の上に長く伸びた」ということ。問題はこの「長く」をどう解釈するか。ウは「広々と」が×。ア「細長く照らした」か、エ「遠くまで照らした」か。

そこで、この一文をもう一度検討すると、「戸が一寸ほどゴロリとあいて」↓「長く伸びました」なので、「一寸(わずか)の隙間から家の中の光が雪の上を照らしたことから、この長くは「細長く」の意味だと確定できる。

問二 論理的思考力「一文の要約」

主語と述語は「子ぎつねはさしこんでしまいました」。だが、これだけでは一文としては不完全である。何をどこにさしこんだのかを補う必要がある。そこで、「子ぎつねはそのすきまから手をさしこんでしまいました」とある。ここではどちらの手をさしこんだのが問題となっているので、「まちがった手」とこれも補う。最後は「二十五字以内」になるように、調整する。

問三 論理的読解力A「空所問題」

直後の「これは木の葉じゃない」から、判断

第十一問

■解答 (4点)

問 (1) エ (2) ウ

■解説

論理的言語力「接続語」
接続語の問題。 (1)は(1)直前の「恐ろしくない」の理由が、直後の「僕の手を見てもどうもしなかったもの」なので、「だって」が答え。「ので」は助詞なので入らない。(2)は「だって〜から」という言葉のつながりを考える。

第十二問

■解答 (4点)

問 子ぎつね(は)

■解説

論理的言語力「主語と述語の関係」
「子ぎつねは〜跳んで行きました。」が、要点

第十三問

■解答 (各4点)

問 (1) ウ (2) イ (3) エ (4) ア

■解説

論理的読解力A「会話での論理」
母さんぎつねと子ぎつねの会話なので、どちらの話しかを考える。(3)の直前が子ぎつねのセリフなので、(2)が母さんぎつね、(1)が子ぎつねだと分かる。次に選択肢の論理的関係を検討すると、ウ「人間ってちつとも恐くないや」↓イ「どうして?」↓エ「手袋くれたもの」と、話の流れがつながっている。(4)は直後に「あきました」とあるので、ア「まあ〜」が答え。

問題II

簡単な論理的文章を読み取る問題。筆者は不特定多数の読者に対し筋道を立てて(論理)説明している。筆者の立てた筋道があるがままに追い、筆者の主張を正確につかまえたかどうかが大切である。独自の解釈で読まないようにしよう。

冒頭は、問題提起。「わりばしについて考えたことがありますか?」とあるので、次にわりばしについて筆者が述べてあることをつかまなければならない。わりばしは、森林を切り倒して作られると、筆者は述べている。

「この森林はどんな役割を果たしているのでしょうか?」と、また問題提起されているので、その答えとなる所を探し出していく。「まず」とあるから、その答えの一つ目が「二酸化炭素を吸収し、酸素を作り出す」こと。「それだけではないのです」とあるので、二つ目の理由を探すと、「大災害になることを防いでくれる」とある。

次の「したがって」は因果関係。ところが、次に「こんな大切な役割を果たしている森林を、私たちはどんどん伐採し続けている」と、論理の流れをひっくり返している。

最後に、筆者の主張。「私たちは今こそ地球の環境を守らなければなりません。」「ちよつとした心がけで、この地球の環境を少しでも守ることができるのです」が、最終結論。

第二問

■解答 (各10点)

問一 ア 問二 (番号) 3 (正) ウ 問三 エ

■解説

論理的読解力B「欠落文を入れる」

欠落文はわりばしのことなので、わりばしについて述べているのはアしかない。

問二 論理的言語力「接続語」

- 1 話題を転換しているのだから、適切。
- 2 逆接だから、適切。
- 3 「したがって」は因果関係。

線部③の直前は森林が大災害になることを防いでできていること。直後は、森林を伐採することで、本来は逆接のはずである。

問三 論理的読解力A「表題」

「表題(主題)」とは、筆者の最も主張すること(趣旨)を語句の形に縮めたもの。問題文は地球の環境を守らなければならないとあるが、「地球温暖化問題」に限定はできないから、イとウを消去。ア「わりばしと森林」では地球の環境が入ってないから、×。エ「環境を守るための心がけ」が、「わりばし」はその心がけの一つとしてあげられているので、適切。

問題III

文章の論理構造・内容を正確に把握し、それに基づいて自分の考えを論理的に説明する力を試している。

簡単な論理的文章を読む問題。文化論を理解する。まず座ぶとんの具体例から始まる。そこで、何の具体例かを探しながら読んでいかなければならない。「日本の文化は仕草の文化だということが出来る」で一般化しているから、これが筆者の主張。さらに具体例が続く。日本では何も座ぶとんに限らず、お茶や生け花、あるいは神社での神主の作法など、仕草によって意味が絶えず変化するのである。

■解答 (各6点)

問一 日本の文化は仕草の文化だ 問二 イ
問三 仕草 問四 ない↓ある 問五 エ

■解説

問一 論理的読解力A「主旨」

座ぶとんやお茶、生け花などの具体的な例を書くのではなく、筆者が主張している点を考える。

問二 論理的読解力B「論理展開」

座ぶとん等の具体例から筆者の言いたい主張へと論理展開している。

問三 論理的読解力A「イコールの関係」

神社の神主の祈禱も、座ぶとんなどと同じように「仕草の文化」の具体例の一つとを考える。

問四 論理的読解力B「誤文訂正」

論理的に明らかでない間違いを探していく。「西洋では、勧めることになる」とあるが、座ぶとんの例に対して、日本と西洋は対立関係にあるので、当然そこには文化の違いがある。だから、「文化の違いがない」は、論理的に間違っている。

問五 論理的言語力「一文の構造」

一文の論理構造を理解する。「意味が変化する」が、主語と述語。「まさに」「仕草によって」「絶えず」はそれぞれ「変化する」を修飾する。

問題IV

文章を論理的に理解した上で、自分の考えを論理的に述べる問題。

■解答

問一 理由ア 具体例ウ (各5点)
問二 理由オ 具体例イ (各5点)
問三 日本文化・日本文学など (5点)
問四 やわらかい呼びの方が、みんなと仲良くできる日本らしいから。 (15点)

■解説

論理的読解力B「具体例と理由」
Aは「ニッポン」で、その具体例はウ「ニッポン、がんばれ」。その理由は、ア。
論理的読解力B「具体例と理由」
Bは「ニホン」で、その具体例はイ「ニホンシユ」。その理由は、オ。
論理的表現力「具体例を挙げる」
日本語・日本経済など。

論理的表現力「自分の考えを述べる」

設問の「そこから考えると」に着目。つまり、「ニホン」と呼ぶとは柔らかい感じで発音するため仲良くしたい時は、柔らかい感じの方が良い。